

# 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 第2回シンポジウムの開催

(令和4年10月26日開催、Web会議形式での開催。事前登録者353名、視聴者数241名)

- ・官民連携プラットフォームでは、孤独・孤立対策に関する全国的な普及活動を行うためシンポジウムを開催。
- ・第2回は、分科会1で議論された課題および対策案を踏まえつつ「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けた、NPO・自治体による実践の成果と課題等を、NPO・自治体・有識者の様々な視点から議論するシンポジウムを開催。

## 孤独・孤立官民連携プラットフォームと分科会の紹介

報告者 内閣官房 孤独・孤立対策担当室

## 分科会1の紹介：活動紹介と「検討成果」に関する報告

報告者 新公益連盟 孤独・孤立担当/井澤徹氏

概要 「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けて孤独・孤立の理解・意識や機運を社会全体で高める取組の在り方を3つの視点(※1)から検討。広く官民が連携し、相談者になりうる層の育成を基盤にして孤独・孤立対策強化月間等に集中的に取り組むことが効果的。また孤独・孤立の社会環境の変化や実態を把握しつつ、さらに検討する。

## パネルディスカッション

### 「声を上げやすい・声をかけやすい社会」に向けた、NPO・自治体による実践の成果と課題

#### モデレーター

内閣官房 孤独・孤立対策担当室 政策参与/大西連氏

#### パネリスト

- ・特定非営利活動法人あなたのいばしょ 理事長/大空幸星氏
- ・認定NPO法人D×P 理事長/今井紀明氏
- ・認定NPO法人ReBit 代表理事/薬師実芳氏
- ・足立区衛生部 部長/馬場優子氏
- ・放送大学・千葉大学 名誉教授/宮本みち子氏

- スティグマ軽減を目的とした声を上げる方法や、制度・政策にアクセス出来ない状況について議論。スティグマ軽減には、スティグマの一般化、行政による声をあげやすいムードの醸成、多様性を受け止められる社会構造への変革等が必要。また当事者自身が問題を自覚することも重要。制度・政策へのアクセス向上には広報や既存相談資源への取り込みも求められる。
- 「声をかけやすい社会」に向けて、相談を受ける側の育成や環境の構築について議論。当事者は自ら相談に踏み切れないことがあるため、相談を受ける側から声をかけることも重要であり、傾聴講習の実施等を紹介。専門機関や官民の連携に加えて情報保護も重要。孤独・孤立の理解者の増加により適切な窓口へのつながりが可能になることを期待。すべての事業において「孤独・孤立」を共通認識として持つことが大事。一方で、自殺対策などと孤独・孤立対策の整理は課題。
- 孤独・孤立問題を如何に社会的に包摂するかという問題等を、官民が連携して推進していくことが求められている。

※1：①制度を知らない層、②制度は知っているが相談できない層。③相談者（相談を受ける人）になりうる層